

サポート通信



第18回千代田まちづくりサポート活動成果発表会

進む、助成グループ同士のコラボレーション



平成31年4月14日(日)、第18回千代田まちづくりサポート活動成果発表会がちよだプラットフォームスクウェア5階会議室で開催された。全14グループ(普請部門2、一般部門10、はじめて部門2)が1年間の活動成果を発表し、活動内容について、ほかの助成グループや来場者と共有を図った。今回は発表に加え、普請部門二次審査で継続審査となったグループの経過報告やOBの2グループによる活動報告も行われた。

今回の発表会で印象的だったのは、助成グループ同士のコラボレーションである。これまでお互いの活動を補完し合うような動きがみられることはあったが、これほど密接に関わりあって、お互いの良いところを引き出し、高め合うようになったのは今回が初めてだろう。

昨年、一昨年に続き3度目のサポート大賞を受賞した「神田プロレス」は今回で卒業となる。当初は「プロレス」と「まちづくり」がどのようにつながるのか、想像することは難しかった。しかし、その抜群の行動力と強い信念で、3年目には神田明神境内でプロレスイベントの開催を実現させた。今後もチャレンジ性・独創性に富んだ新たな活動を行うグループが出てくることを期待したい。

普請部門では、「海老原商店を活かす会」と「秋葉原・旧旅館【東館】内ちよだニャンとなるCafe」から活動報告があった。前者についてはSNSを活用した情報発信力、後者についてはクラウドファンディングを成功させたノウハウに会場から注目が集まった。また、昨年11月の二次審査で継続審査となった「神田珈琲園」再生プロジェクトチームから、指摘事項となっていた建築計画における継承性や計画の持続性に関する経過報告があった。前向きに検討が進んでいるとのことだったので、今後も努力を続けてほしい。

協働運営4年目となった(一社)千代田まちづくりプラットフォームからの提案で、過去の助成グループ「市井人・斎藤月琴に学ぶ会」と「東京高架下軌道」からの活動報告もなされ、来年度20周年を迎える千代田まちづくりサポートのこれまでの功績の一部を振り返ることができた。

次回以降、これまでになかった新たな活動テーマが提案されることを期待したい。

目次

【第18回助成グループ(発表順)】

【一般部門】

文人通りギャラリーカフェ「学び舎」(3回目)	2
神田プロレス(3回目)	2
一般社団法人神田をワインの街にしようの会(2回目)	3
一般社団法人協働プラットフォーム(2回目)	3
Chee's(2回目)	4
三崎町SMILEプロジェクト(1回目)	4
江戸長唄ごひいき衆(1回目)	5
かさらじお・どっとこむ@秋葉原(1回目)	5
東京都青果物商業協同組合やっちゃんば秋葉原実行委員会(1回目)	6
お茶の水ロボットクラブ(1回目)	6

【はじめて部門】

NPO 法人芸術資源開発機構(ARDA)	7
Chiyoda Bon-dance Mates	7
【普請部門継続審査 経過報告】	
「神田珈琲園」再生プロジェクトチーム	8
【普請部門・年度報告】	
海老原商店を活かす会(2回目)	8~9
秋葉原・旧旅館【東館】内ちよだニャンとなるcafe(1回目)	9

【OBグループ活動報告】

市井人・斎藤月琴に学ぶ会(後藤禎久氏)	9~10
東京高架下軌道(通称ニコニコ電車)(山岸勇一氏)	10
【審査会委員講評・全体講評】	10~12
【賛助会員一覧】	12

審査会委員

会長	なかじま なおと 中島 直人 東京大学大学院工学系研究科 准教授・博士(工学)
副会長	おくむら げん 奥村 玄 株式会社GENプランニング 代表取締役
委員	かたおか しょうご 片岡 勝吾 麹町五丁目町会 副会長
委員	ごとう よしひさ 後藤 禎久 市井人・斎藤月琴に学ぶ会 会長
委員	あさひな ゆり 朝比奈 ゆり 東京ボランティア・市民活動センター 専門員
委員	ほった あきのぶ 堀田 昭信 興産信用金庫 お客様支援部 シニアチーフアドバイザー
委員	おんだ ひろゆき 恩田 浩行 千代田区子ども総務課長



編集・発行：公益財団法人 まちみらい千代田 協働まちづくり・総務グループ

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21 ちよだプラットフォームスクウェア4階 TEL.03-3233-7556 FAX.03-3233-7557

https://www.mm-chiyoda.or.jp E-mail machisapo@mm-chiyoda.or.jp

番町麴町地域を中心に千代田区全域をキャンパスとし、区内で活躍する人を講師として、誰もが先生、生徒になり、お互いに学び合うことで人と人とのつながりを持たせる

〔文人通りギャラリーカフェ「学び舎」〕（一般部門・3回目）



番町麴町住民の連携、交流を目指す最後の年で1回目は親子クッキングで寿司ロール作りを行った。地域の幅広い世代の参加もあり、「飾り寿司・バラの海苔巻き作り」に海外で寿司作り講習会をしたいという親子も参加した。2

回目は番町の書道教室講師を招き、消しゴムはんこ作りと書の会を開いた。秋はアマルフィから服を提供してもらい、地元のスニアの方がその中から好きな服を選びファッションショーを行った。

12月のクリスマス会には、お招きした障害のある方や施設の子どもたちとご家族で歌ったりしてコンサートを行った。2月は毎年恒例になった手作りの皮から作る「水餃子クッキングで春節祭」を開催した。来年は焼き餃子を予定している。3月31日の年度末にはアフタヌーンティー交流会でピアノとバレエのコラボ・コンサートを行った。ホールの関係上、定員25人で、10名程お断りした。番町にあるフレンチレストランのオーナーから「食べながらのコンサート」の提案があり、来年度の企画として検討している。

コンサートは大好評で空席はなかった。周知のためにチラシを区民館や郵便局等に持って行ったり、チラシから申し込みができ

るようにQRコードを付けたりするなどの工夫をしたことが良かった。若い人にも喜ばれ、年間の活動を通じて、打ち合わせのスタッフを含めると約150名の参加があった。地域交流という目的は十分達成したとはいえ、イベント自体には反省点や改善点もあり、今後の活動で修正していきたい。

Q：障害のある方たちとのクリスマスコンサートは定期的に開催するとのことだが、「資金も含めて土台作り」をしたとは具体的にはどのようなことか？

A：店の前に看板を設置し、チラシも外注で、デザインを工夫した。宣伝効果もあり集客力も上がり、次回は広告も考えたい。

Q：テーマがまちの歴史から暮らしの身近に広がった。イベントの時だけではなく普段も年間通して展開するのか？また、来年以降もアマルフィを中心に活動するのか？

A：アマルフィに毎日顔をのぞかせる人もいる。参加者が次の会の講師になり、前年度の参加者を巻き込みビデオ係やCD作成を行った。みんなでお茶を飲みながらそれを見る。同窓会的につながり、新たな発見も多い。発起人のお店アマルフィを借り、場所代も助かっている。イタリア語の料理教室等、月1度のワークショップ的な活動が始まっており、地域の方との交流ができ、アマルフィが貴重な場となっている。「食べながらのコンサート」の企画も継続されるし、ほかにも企画があれば検討していく。

ご当地プロレスで地域と子どもたちに元気を!!

〔神田プロレス〕（一般部門・3回目）



神田明神での奉納プロレス開催を夢に活動を始めた。神田明神の祭務所地下ホールでプロレスを行い、同時に子ども向けのワークショップや子どもたちが一日遊べる場所を提供した。これまで多数の入場者が集まり、3年目の今年、

神田明神から境内でと申し入れがあり、「神田明神奉納プロレス&こどもフェスタ」が実現した。

境内の使用料や諸経費をまかなうため、クラウドファンディングに挑戦した。“神田で地元のチャンピオンを”と、神田チャンピオンベルトの製作も考えた。その製作費として80万円を募集したが、73万8千円、達成率約92パーセントで失敗となってしまった。

それでもはじめて境内でプロレスをやれるので、やはりチャンピオンベルトを作りたいという想いから、自己資金で計画どおりに製作した。改めて寄付をくださる方もいて、何とか開催することができた。千代田区長を表敬訪問し、区の紋章が入った神田ヘビー級チャンピオンベルトとして公認していただいた。

チャンピオン決定戦を神田明神の境内で行ったほか、まちサポ最後の年なので、ほかの助成グループとコラボし、防災のワークショップなどを行った。

知り合った皆さんと千代田区を盛り上げる活動を考えてきた。そのなかでドッチビーの競技体験会を開催することができた。

この成果発表会では神田ヘビー級チャンピオンを呼んでいるので、ベルトのお披露目を兼ねて紹介します。

「3年目でベルトができ、僕好みの重い鉄で作ってもらった。今後も協力できることがあれば協力するのでよろしく！」

Q：私は当日観戦した一人だが、3年前を思い出す。3年前のまちサポの公開審査会で、神田明神の本殿前でプロレスをやりたいたと言っていた。ついに境内でやるのを見て、夢がかなったなどと感動した。

A：初年度の審査会で「なんでプロレスなの？」と言われた。それが最後にプロレスを見て喜んでいただけてよかった。

Q：サポート終了後、来年度以降の活動は？

A：神田スポーツ祭で毎年2月に継続して実施する。神田地域の祭りやイベントにも声をかけていただいているが、観戦料は無料を通したい。神田明神でなら助成は納得されると思い少し背伸びした活動になった。境内でできたことをもとに自分の足でスポンサーを募り、賛同いただいた。千代田区社会福祉協議会にもお世話になり、読売、毎日新聞朝刊に掲載された。自己資金も活用し計画を縮小せずに実施できた。

Q：この3年間で夢を実現したが、今後の夢や目標は？

A：田中稔さん（プロレスラー）に声をかけて、やっと出場していただいた。今回は全日本プロレス出身のプロレスラーも出てくれたので、夢は千代田区で一番大きなプロレス会場、日本武道館で開催すること。

3 神田をワイン色にして、あたたかな人のつながりのある街にするプロジェクト (一般社団法人神田をワインの街にしようの会) (一般部門・2回目)



神田地域の飲食店が変貌して長く根付かない状況にあり、在勤者も通り過ぎる街で土日は駅前も閑散としていて空き家も多い。神田でよくワインを飲む我々が人と人をつなぐ小道をワインで作ろうと活動を始めた。一年目はワイン

祭りをテーマに応募し、今年はぶどうを栽培した。神田で育てたぶどうでワインを作るため、廃校の旧今川中学校跡地でぶどうを育て、少しでも神田のぶどうが入っているワインを提供したいと考えた。ワイン作りとぶどう栽培を二本の柱にした。

お祭り当日は天候にも恵まれ、また準備にも慣れ、つつがなく進めた。東京新聞・朝日新聞のネット記事に掲載されたこともあり、チケット1,500枚は完売した。JR神田駅前の24店舗が参加して、マップを作り、盛況だった。課題は、どの店も人手不足で支援するボランティアも少ないこと。土日休業の店舗も多く、休日は従業員の確保ができず、参加できない場合もある。神田の飲食店で活気あふれる街にしたいという我々の願いをかなえるのは課題が多いと感じた。

お祭りを続行したい気持ちとそれに反する現実がある。祭りのグッズは業者に頼まず内職で手作りした。おかげさまで多くの人が集まり、参加者からは「来年も来たい」との声があった。そこでリピート企画を立て、継続的に街に来てくれるようにしているが、アンケートには、「休憩する公園や公衆トイレがない」とい

う意見が多く寄せられる。あるにはあるがきれいで清潔なトイレは少なく、我々で祭りのたびに掃除しているが、皆さんにもご協力いただけるとうれしい。

ぶどう畑「神田今中ぶどう園」は順調で、去年の台風で倒木した経験を生かし、今年は穴を掘り囲いと棚を造った。メンバーで毎日水やりしているが、子どもたちと一緒に育てていけると考えている。神田プロレスなどのグループとも協働しており、去年も映画制作のグループが活動の映像を撮って流してくれた。千代田の街にぶどうの樹が植わっている風景が夢で、それを目指して活動していきたい。

Q：ボランティアの個人の負担が重いとのことだが、今はどうか？

A：祭りは規模を広げず、できる範囲で活動している。主要なメンバーの出入りも多く大変だが、外部にも発注し、負担を減らしている。今はぶどう園が課題で、ボランティアや協力者を募集するなど、もっと情報発信して祭りの参加者にも呼びかけていく。中心メンバーの結束は固い。

Q：ぶどうは生き物で日々の世話や、栽培する人を地域に広げる必要がある。祭りの開催や地域との連携で難しいのは何か？

A：ブースを構える場所、スペースの確保が難しい。とにかく人手が足りない。地域の人との交流も深まり、祭りのみこしの担ぎ手にと誘われたが人手が足りずできなかった。「神田駅100周年」写真集に江戸からの歴史が紹介された。この神田を楽しく活気ある美しいエリアにしたい。

4 千代田・神田デジタルアーカイブズの構築とWeb (一般社団法人協働プラットフォーム) (一般部門・2回目)



デジタルアーカイブの構築を目的としてオーラルヒストリーの記録と関連映像を収集し、神田のまちづくりに生かして地域の絆を深めるために活動している。

今年は写真や動画を集めてネット上に蓄積するだけでなく、神田

駅100周年にまつわるさまざまな地域を語っていただくオーラルヒストリーを「Webラヂオ」の番組として放送した。その時の写真・動画・資料を提供し、地域の方に見ていただき、それをアーカイブする。さらにアーカイブしたものを現在の地域の方との関わりに活用する。例えばJR神田駅100周年のイベントや鍛冶町二丁目町会と連携して祭りの様子をリアルタイムのライブで中継したり、地域イベントの記録を写真で瞬時にインターネット配信したり、大型プリンターで速報のチラシ等を編集して作りその場で配るなど。

また、災害が神田周辺で起きた場合は、帰宅困難者に向けた情報が必要になる。「Webラヂオ」と印刷物で、情報をリアルタイムに提供できることをPRするため、神田駅周辺のエリアマネジメント協会やセイコーエプソン(株)の協力を得て、イベントに集まった地域の方に配布した。神田駅100周年の冊子に神田の歴史をインタビューし、提供いただいた写真とアーカイブして活用したが、発行には神田駅前商店会と神田駅西口商店街の協力があった。残部が少なくなったので、自己資金で神田駅100周年

の情報も入れて再発行し、地域に配布を予定している。

また、さまざまな地域の活動を「見える化」しており、神田プロレスのライブ中継や、神田明神のみこしの実況中継も行った。神田プロレスが日本武道館で実現した時は、またお手伝いしたい。

番組作りを通じて地域の支援ができる活動を目指しており、ラジオはスマホのアプリをダウンロードして聴いてほしい。

Q：多様なメディアでの発信を、多くの人が受け取れるようだが、手応えを感じることは？

A：それはこれからだが、イベントのコラボで少しずつアプリをダウンロードしてもらっている。「Webラヂオ」は多チャンネルで同時に流せるため、英語版や地方連携チャンネルの準備をしている。広く聴いていただける番組を作りたい。

Q：「Webラヂオ」のリスナーの対象は？

A：インターネットのスマホのラジオなので、地域の在住、在勤の人や観光客にも聴いてほしい。千代田区出身者が地方に移っても聴ける。地域にこだわり地域を越える事を心がけている。

Q：助成金でスタジオ設置とあるが、今後考えている事はあるのか？

A：2年目卒業後は神田駅ナカスタジオや神田駅西口商店街の空き家の1階路面店舗にスタジオをオープンできそうで、地域に開かれた場として持続する活動をしていきたい。

5 千代田で感じたことをみんなで Chee's (地図) にする

(Chee's) (一般部門・2回目)



千代田の良い所を地図に残す Web サイトを作ることを目指して、Chee's は活動してきた。まずはシェア・マップ (フリーマップ) の作成のため、昨年 11 月に上智大学の協力で紀尾井町から平河町へのまち歩きイベントを実施した。

テーマは千代田の癒しスポット探しで参加者同士が発見した場所をシェアするため、紙に描いた地図を Web 化する。

このグリーンマップ上でボタンを押すと Web 上に発見した人・物・キャッチコピーが示される。プロトタイプができたので、今後のまち歩きに活用できると考えている。多くのメディアにも紹介され認知度が上がってきたが、もっと広く知ってもらうため 10 月には「福祉まつり」に出展、銭湯記事 (ちよせん) を編集・印刷して、手作りのオーガニック・クッキーと一緒に配布した。来訪者に千代田の癒しスポットのヒアリングを実施し、56 か所の情報を得た。

「ちよだいいところマップ (神田明神編)」は神田プロレスの観戦後にまち歩きもしてほしいと思い作成した。神田明神裏のお社や、ワテラス周辺を案内した。昌平小学校ではプールも一般開放されているのでマップに載せた。

ほかのグループのイベントにも参加したが、イベントのプログラムだけでなく、その周りの千代田の見どころのマップが、まちづくりの魅力を伝えるために必要ではないかと思った。

課題は費用だったが、助成をいただいて達成できた。ほかのグルー

プとの連携も大切と感じ、声をかけ合ってコラボしてきたことで、次第にメンバーの結束も高まった。

Q: 収入が少ないことで、対応を考えていることはあるか?

A: 大きなイベントではマップを有料にするか、仲間で話し合いたいと思う。

Q: マップを見た人や参加者が提案するというのは、自然に出てきたことなのか?

A: 呼びかけることを意識していた。お店だけでなく千代田のおすすめスポットを紹介した。チラシのデザインで、共立女子大学から Web デザインの依頼を受けたし、ほかの町会からもお話があり、今後もともに作り、一緒に活動できればうれしいと思っている。ほかにも、ワインの会・やっちゃば秋葉原・長唄の会のイベントに、その周辺のマップも必要かと考え、取材をさせていただいた。今後も活動を広げていきたい。課題はさらに認知度を上げることかと思う。



6 神田三崎町祭り ~笑顔で作ろう みんなの和~

(三崎町 SMILE プロジェクト) (一般部門・1回目)



日本大学の学生団体で、学生にしかできないことをやろうと活動を始めた。パンフレットを作り、経済学部周辺の地域の方々と交流を深めるために、飲食店の方に直接お話を聞き、クーポンやお店の紹介を掲載した。学生にそれを配

り、ランチなどでクーポンを使えるようにした。飲食店の方から「地図は手作りにした方がいい」とアドバイスを受け、手作りの地図を入れ、地域の方にもご協力いただいた。

5 月には、25 人程のメンバーで、神田三崎稲荷神社のお祭りや縁日に参加し、ヨーヨー釣りやお菓子のつかみ取り、綿あめ等の屋台を出した。家族連れや小さい子どもたちとも楽しく交流できた。来年もぜひ参加したいと考えている。例大祭は神田三崎町の大小 2 種類のおみこしを担ぎ、担ぎ手は町会ごとに変わるので、いろんな町会の人と出会えた。提灯や神主の日除けの大日傘も持たせていただき町内を歩いた。今年は神田祭への参加のお誘いを受けたので、ぜひ参加したいと思う。

3 月に町内のお弁当屋さんのオーナーに依頼して料理教室を開催する予定だったが、場所代が足りなくて断念したので、今後の課題にしていきたい。

イベントに参加する学生はいるが、企画を立ち上げる際に協力してくれる学生は少ない。最後に具体的な実現ができず、助成金が残ってしまった。

Q: おそろいの T シャツを着ているが、神田三崎町に何か関連のあるデザインなのか?

A: 日大学生グループの学園祭 T シャツをメンバーで着ている。

Q: 活動はパンフレットだけでなく千代田区のシンボルマーク入りのバンダナ、腕章等も考えてもいい。地域とのつながりが生まれたのに仲間が集まらないのは残念なので、今後の活動に生かしてほしい。

A: 今後の課題だ。大学祭だけでなく、三崎町のプロジェクトに参加する学生を集める。

Q: いろいろなやり方を探り、イベントも増やして募集をかけるなど工夫するとよい。町会の活動に参加するのはいい事なので、助成金を使う目的を明確にすることと、仲間づくりについては学生のボランティアを取りまとめる団体もあるので、人の集め方や組織の作り方等について助言を受けてはどうか?

A: ぜひ、検討していきたい。



7 三味線の音が響く粋なまちづくり ～長唄をきっかけにつながる、広がる

(江戸長唄ごひいき衆) (一般部門・1回目)



活動の主旨は長唄をコミュニケーション作りに活用すること。区民同士が世代を超えて広くつながってほしい。

8月に御茶ノ水駅前広場の「夢見る七夕イベント」で三味線演奏し、明治大学町づくり道場、お茶の水サンクレール商店会の街コンサート企画にも出演した。

9月は「サイボウズバル」で同映画部とのコラボ企画、「幕末太陽傳」の上映の前に三味線を披露し、観賞後に解説をした。同月27日には麹町区民館に集まり、半蔵門エリアの歴史をテーマに散策後、長唄「俄獅子」を抜粋して演奏し、三味線体験ワークショップを開催した。

10月は海老原商店で現代アート展覧会の期間中に長唄三味線の稽古をした。

12月～2月の隔週水曜日には九段生涯学習館で「長唄でほどこき～江戸の情緒と三味線体験」を全5回実施し、22名の方に長唄の成り立ち、江戸・東京の情緒を解説し三味線体験を行った。

3月には神田明神祭務所地下ホールでフィールドワークを行い、明神下の「スリバチ」を歩いた。その後、長唄トークを渡辺憲司氏(立教大学名誉教授)・岸川雅博氏(神田明神権禰宜)が行い、関連ある「勸進帳」等を私たちが実演した。同月30日には神田明神境内の神田プロレスのリング上で三味線を演奏した。

多くの方々に協力をお願いしてこれだけ多くの活動を実施する

ことができた。神田明神でも会場費を安くしていただきホールをお借りした。

どのように千代田の歴史・文化、地域づくりに貢献できるかが課題だった。ワークショップを広く関心を集めるテーマで開催することで、和文化に関心の少ない層に対して働きかけたり、映像ではクオリティの確保と解説付きで分かりやすく飽きさせない工夫をしたりして、協働プラットフォームさんに撮影をお願いし、ネットにもアップしていただいた。

今後も地域の方やまちサポのグループとコラボして活動していきたい。

Q: 延べ100名余りの人が参加したとのことだが、参加者は、どういう人たちか?

A: 九段生涯学習館は区の在住、在勤の人を対象にしたもので、男性も多く、年代は40代の方が多かった。

Q: 助成金は減額されたが、事業に対する要望は何かあるか?

A: 事務局にほかのグループとの橋渡しをもっとお願いしたい。今回はすべて自分たちで人的ネットワークを構築した。



8 傘とラジオと秋葉原 ～次世代育成とコンテンツ醸成～

(かさらじお・どっとこむ@秋葉原) (一般部門・1回目)



第2回目の活動として子どもたちだけでなく、興味を持っていただいた大人向けのワークショップをアーツ千代田3331コミュニティスペースで開催した。傘ラジオは日用品の傘やアルミホイール等を使い、電池のいらぬゲルマ

ニウムラジオで作られている。子どもたちは不思議に思って関心を持ってくれた。電気街で有名な秋葉原でやるので子どもたちと中年世代を結びつけたい。

同施設のコミュニティスペースは、前面に練成公園が広がり、外の強い電波が必要な傘ラジオには好都合だった。会場は元学校があった所で使い勝手が大変良かった。夏に秋葉原UDXでワークショップをしたが、イベント会場は4階で、エスカレーターで2階に行って外に出た。風が強く場所を変更し傘をたたみ、半分分解した状態で移動した。

はじめに簡単な座学をする。電線を傘に巻く作業は時間がかかり、子どもたちも集中力が切れてしまうので、子どもたちに話したい内容は事前にまとめている。今回は土曜日に設定したが、今は小学生も登校日で子どもたちの集まりが悪かったため、急ぎょ年齢制限を設けずに実施した。まちサポの申請時に知り合った(株)玉麻屋さんが防災関係の観点からワークショップの講師をしてくださり、一緒に手伝っていただいた。アンケート結果を見ると、幼稚園の5歳の子から小中学生、10代から70代まで多

彩な顔ぶれでおおむね好評だった。

ネットでも公募したが、チラシでイベントを知り応募した方が多く、チラシは案外大切だったかと思う。子どもたちからは「知らないことを知ることができてよかった」大人からは「なぜ聞こえるのか不思議で楽しい」という感想が寄せられた。

Q: 不思議な傘ラジオを子どもにも大人にも広めることができたが、次年度の活動はどうしていくのか。

A: 実は傘ラジオのワークショップを考案したのが20年前で、多くの所で開催し、一とおりの反応は分かってきた。スタッフには先生の講義で育った30代の方もいる。ものづくりの原点は多種多様で、彼らにもやりたいことがあるので、秋葉原とものづくりで何をするか、改めて考えてアプローチしていきたい。防災も含めて大人向けのワークショップを考案しており、小さい拠点を設けたので、そこで常に話せる場づくりも行っていきたい。



9 「山東菜市（さんとうさいいち） やっチャば秋葉原～学べるマルシェ～」

（東京都青果物商業協同組合 やっチャば秋葉原実行委員会）（一般部門・1回目）



2017年から「食育と青果物の消費拡大」を目的にイベントを開催している。昨年12月に秋葉原駅前公園で「第2回 やっチャば秋葉原～学べるマルシェ～『山東菜市』」を開催した。これは神田に市場があったことから、地元の方と一緒に開催した。イベント前日は急に冷え込み、当日の集客が心配だったが5,200名もの来場があり盛況で、当日の様子は朝日新聞等にも掲載された。駅前に山東菜100束ほどを積み上げて商売をして市場の雰囲気を出した。街頭で競売をして模擬セリを行い、値段も跳ね上がり、盛り上がった。

まちサポの助成グループ ChiyodaBon-danceMates が盆踊りでステージを盛り立ててくれたり、地元の皆さんが和太鼓を披露してくれたりした。講師の田辺さんには「江戸・東京野菜」の紹介してもらった。アンケートには若い方からも好意的な声が寄せられた。

まちづくりなのでもっと地域に密着した活動をして地元住民の来場をもっと増やしたい。八百屋を使っている人は全体の3分の1ほどと言われており、八百屋への理解を深めてもらうため、漬物作りの実演や八百屋としての食育、八百屋塾を実施している。地元の小学校の子どもたちや、地域の方が出店してくれることを目指している。もっと多くの人に知ってもらい共催していけるように、今後は八百屋塾の発表の場としてイベントを開き、毎月やっ

ている野菜や食育等の活動を公開していく。八百屋塾を地元の料理教室と関連付け、発表の場とし、イベントにもつなげていきたい。

秋葉原に市場があった歴史を掘り起こして学び、共感してくれる会や人に伝え、地域と協働して秋葉原に根ざした活動にする。参加者は町会や市場で働いていた人が多かった。開催のための目的を明確にし、資金を抑えて継続していきたい。

Q：食育や、農家の野菜の作り手と食べる人、消費者の触れ合いはとても大切だと思う。子どもたちは「お店屋さんごっこ」がとても好きだと思うので、八百屋のおもしろさを伝えるには、もっと手伝ってもらってはどうか？

A：参考にしたい。地元の小学校からも食育面での連携を期待されている。



10 お茶の水ロボットクラブ ドローンプログラミング体験機会の企画・開発・提供

（お茶の水ロボットクラブ）（一般部門・1回目）



レゴを使ったロボットで、子どもたちにドローンプログラミングを体験してもらったイベントで、これまでに延べ800人が参加した。千代田区ではドローンを飛ばしにくく、また、学校でドローンを使うのも先生は教えづらいし、非常

に危険だと言われている。子どもたちに直接触らせるのも一歩間違えると事故につながるの、テントや網を用意して安全にドローンを飛ばす環境を考えている。

参加者からは、操縦してなかなか思うようにいかないとか、プログラミングで精度がでないとか言われる。我々も自己資金で購入したドローンには非常に苦労していたが、11月に買った新機種は高性能で、これまで悩んでいた問題が解決した。ワテラスのサロン手前に場所を設置し、テントが飛ばないように工夫した。実は、前日にやったイベントでテントが強風で飛ばされ、テントは屋外設置禁止になってしまった。

いつもお茶の水ロボットクラブでやるときは、レゴのショップで会場も広く、子どもたちも多いが、テントが広げられなくなり、イベントとして尻すぼみになった。そんなとき、3月に会津若松市から子どもたちの春休みイベントでドローンを飛ばしてくれと声がかかり、やることになった。具体的にコンテンツを再確認しカリキュラムを利用して無償でワークショップを実施した。子どもが自分で考え、プログラミングしてドローンを飛ばした。10

日間ほど地元在住の学生たちがサポートしてくれ、約100人位の子もたちが参加した。

運用上の問題はいろいろあり、バッテリーが上がってしまうことなどが分かってきたので、それを改善して今後提供していこうと考えた。

先週、ワテラスで千代田区の子もたちにも実際にドローンを上げてもらった。今後の計画として、ワテラスで自動運転の車とか、車椅子に乗れるプログラミング化も含めて、ドローンを飛ばせる場所を求めて新たに提供していきたいと考えている。

Q：技術的問題はクリアし、形ができ完成されたようだが、情報発信の方法や広報活動はどうするのか？参加者はどのような人たちなのか？

A：参加者がどこの地域の人かのアンケートは行ってないが、ふらりと来た人たちは地元の方が多かったと思う。広報も仲間と相談し、地域の特性や千代田区限定で発行することも考えている。

助成を受けるならワテラス・コモンからもっと発信して地域での活動も充実を図っていく。





9月9日に近代美術館で開催している「ゴードン・マツ＝クラーク展」の対話型観賞を行った。作品を見ながら、常識や専門家の解説に頼らず、見た人が作品をどう思うかを話し合いながら、観賞を深める活動をしている。アーティストにワークショップをお願いして、一般の人を対象にアートを体験してもらい、作品の想像力、表現力を感じていただく。

それと並行して、千代田区のまち歩き活動として、近代美術館から神田にある当法人オフィスまで移動し、交流会を開催した。ワークショップで完成作品の展示を3日間実施した。

今回の同美術館の観賞作品は、60年代～70年代アメリカで活動していた画家。街に出かけて機能性や現代性に傾いてしまった街の見捨てられたものや、排除・抑圧されたモノに目を向けた。限られた人のためだけではないアートやアーティストによる豊かなコミュニティ創出の方法を模索した。

その後の作品展示会は、街に繰り出して自分たちで新しい作品を見つけだして写真に収める活動を行った。自分が作家になった視点でまち歩きをする。参加者による写真展には、千代田区在住の1組の親子の参加もあった。ビル街、神田の街らしい所もあり、機能性が失われたような所もある。ほかにも、「形としておもしろいから」という物もあった。謎のゆるキャラの写真など、美術館の作品を見て感化されたように思う。

その後の作品展示会は、街に繰り出して自分たちで新しい作品を見つけだして写真に収める活動を行った。自分が作家になった視点でまち歩きをする。参加者による写真展には、千代田区在住の1組の親子の参加もあった。ビル街、神田の街らしい所もあり、機能性が失われたような所もある。ほかにも、「形としておもしろいから」という物もあった。謎のゆるキャラの写真など、美術館の作品を見て感化されたように思う。

実質的に街の新しい可能性を見つけ、普通は街で生活していると機能的なモノばかりに目がいくが、改めてアートの眼で見ると、自分たちの街や千代田区のイメージが変わり、新たな魅力を見つけ、街への愛着も生まれる事を実感させられた。

最終的に写真はその場でプリントして撮った人に渡し、各自説明しながらコラージュ作品を作った。広報はチラシを作り、主にWeb上にあげ、いろんな媒体にも掲載した。千代田区の図書館や公共施設に置いたが、参加費もかかるせいか、あまり多数は集まらなかった。ワークショップ後のオフィスでの交流会等、千代田区内での持続性をグループの活動に期待している。

Q：魅力的な活動で、拠点を千代田区にとのことだが、今後の足がかりは見てきたのか？

A：専門的な人の参加が多かったので、一緒にやれるように、スタッフで千代田区内のオフィスでの可能性を探っていく。



昨年11月～3月までに練習を4回行い、「千代田コミュニティラボライブ」にも参加して踊りを発表した。練習には10～20名が参加し、半分は外国人で、会社員の方とその子どもたち、区在住・在勤の方もいた。練習の後に

は英語やフランス語などで交流を深めた。

もっと練習の回数を増やしたいが、音源の入手が難しく、実施して気が付く難しさもあった。文化の交流で情報も得て、学ぶことが多かった。ビデオでお手本を撮影して、それを見ながら練習すれば分かりやすかったかもしれないが、そこまでは手が回らず、結果的には4回しか練習できなかった。

活動する中でうれしかったことは、いろんなグループとコラボでき、出会いがあったこと。場所探しに苦労していたら、やっちゃんば秋葉原さんや海老原商店さんが場所を貸してくださり、外国人の方が大変その場所を喜んでくれた。海老原商店では盆踊りだけでなく貴重な内部の構造等の説明をしていただき、文化の共有もあって、すてきな体験だった。

ニューヨーク盆ダンサーからメールでオファーがあり、ずいぶん遠くまで伝わったと思ったし、千代田区民踊連盟からも評価していただいた。つながりがどんどん増えていくのがとてもうれしかった。

難しかったのは、依頼していた外国人が自分の国に帰り、盆踊

りの説明に困ったりして、次のステップにはいろいろ考えないといけなかったこと。完璧ではなかったものの、何とかここまでやってこられたが、特に広報の仕方や場所の確保等、しっかり考えて臨み今後も活動を続けたいと考えている。

Q：外国人も対象にしての貴重な活動だが、この1年間に千代田区内で外国人も含めて、どんな広がりがあったのか？

A：実際に広くつながるのは難しく、「スワン」という千代田区社会福祉協議会に登録している留学生相手に日本語を教えている友人や出身大学、会社の知り合いが多く参加した。フェイスブックでも呼びかけたが、なかなか集まらない。今後は国際交流について千代田区に相談し、広く呼びかけたい。

Q：英語力を強みに、しっかり広報をして、さらに来年度もぜひ活動してほしい。

A：はい、がんばります。



13 JR 神田駅高架下で創業 60 年、地域に愛され続ける『神田珈琲園』の再生

(「神田珈琲園」再生プロジェクトチーム) (普請部門継続審査 経過報告)



「神田珈琲園」の動きとしては、9月に解体工事現場で測量等を行い、それをもとに設計をした。11月に耐震補強工事が終わったところで、JRと協議を行い、12月に建設業者に見積りを依頼し、1社から提出があった。まだ予算

がつかない部分もあり、なかなか工事の開始には至らず、見積り内容を検討して調整し、今年3月に建設会社を決定した。

前回の設計段階で、問題等の解決のために打ち合わせを何度か行い再度検討した。「神田珈琲園」は、まずお客様との距離感が大切だと思う。一般のカフェではなく、いろいろな人が訪れるので、カウンター・いす・テーブルの配置等を具体的に考えた。高架下の店なので店内に凸凹もあったが、今回の建築工事でなくなる部分もある。各席の距離間隔等も考え直した。

次に全体のスケール感を検討した。天井の高さを抑えた落ち着きのある空間を生み、かつ狭さを感じさせないように、入り口の空間に、空間建築に比例したものとして、大きな吹き抜けを設けた。

最後に、ここはお酒を出さない喫茶店なので、コーヒーの香りが重要となる。昔の焙煎機では、すぐ出るので周りをガラスで囲っていたが、今回は新しい機械ですすぐは出ないため、ガラスを取り払い、むしろ焙煎機が目に見えるような場を演出した。

計画の見直しという課題については、まず工事費のプランを検討して500万円位抑えることで目標を達成したい。

今後の懸念としては社会情勢による建材不足や、資金調達困難等、オリンピックの影響も大きい。規模の縮小も考えたが、結局工事費は大きく変わらないし、地域の活動拠点として支えていくにはやはり、2階部分が展示スペースとして必要。ぜひ地域の人の使ってほしいので、現状のプランを実現したい。

活動計画を盛り込み過ぎではという指摘を受けたが、ギャラリーや関連グッズの販売、緊急の課題である見守りサポートなど、地域の課題として実施していきたいと考えている。新たに計画している内容は、高齢化社会での認知症サポートに関する勉強会、情報交換や街の情報の発信を検討している。地域を支える「ささえ愛まち会議」にも積極的に参加し、参加者からこの場所は駅が

近くて便利と言われ、市民活動の拠点としての大きな期待が寄せられている。千代田区社会福祉協議会にも期待されていて、いつ実現するかと問われた。

スケジュールは、建築工事が遅れて、昨年の計画では6月にオープンだったが、6月下旬の着工を目指し、来年2月の竣工、3月位に開業を考えている。

クラウドファンディングでも資金を募集する。再生に向け引き続き応援をよろしく願います。

(建築アドバイザー(まちプラ市川氏)のコメント)

Q: 建築に関して、見積書の内容を拝見した。レトロ・モダンなイメージの継承をどうするか? コストの増大をどうクリアするか? これまでのお店のイメージの継承についても考えていくようにしてほしい。

A: イメージの継承については、耐震構造の関係で近代的フレームは新しい建材なのでこれまでどおりのレトロなイメージではないかもしれないが、床はできるだけ、家具等はすべて保管していた古い物を生かす。古い物をそのまま生かすのではなく、現代風にアレンジしながら使う。外壁は予算上コンクリートに似た物を使うが、イメージ的にはラインを入れたりして工夫する。天井の高さは、高架下なので2メートルが限度である。工事は技術的にはかなり難易度が高いが、建築基準法に合わせ実施する。昔の建物と高さはほとんど変わっていないし、昔も天井は低かったので、さほど雰囲気が変わるとは思わない。

(中島会長のコメント)

前回の審査会で継続審査になったが、持続性の面で審査基準の確認ができなかったため、それが分かるための提出書類が未提出となっている。今日は審査結果を出すのは難しいので現状の報告をしてもらうことになった。かなり前向きに条件に対応していただいたと思う。



14 神田に残る、近代建築史の生き証人とも言える「看板建築」の代表的な事例、海老原商店を改修し、長寿命化を図るとともに、生きた活用方法を提案する

(海老原商店を活かす会) (普請部門・年度報告2回目)



今年は多くの方に来ていただき、利用していただいた。まず、法政大学建築学科の学生から、海老原商店の研究と模型製作を授業で行いたいという申し出があり、実測などの協力をした。

今年度のターニングポイントは、昨年10月から1か月間、画家・長井朋子さんの個展「100年と10月の桜」を開催したことだった。大手の新聞やラジオでも紹介され、反響が大きかった。絵はもちろんだが、この場所での開催が目玉だったと思う。

この空間がアートや落語にもすごく合うと思ったので、これからも継続し、この活動を通じて地域の活力にもつながってほしいと思った。ほかのまちサポの助成グループにもご利用いただいている。

残念な計画の変更としては、当初は180日間の民宿を予定し、運営資金にしようとしていたのだが、2019年4月に向かいに保育所の建設が決まり、千代田区の条例の規定で民宿を営むことは制限されることになり断念したこと。

今年の目玉は、画家オーライタロー氏の個展で、今回は神田の

現存する看板建築の新作の絵を中心に展示し、5月の10連休に近代建築をテーマに写真家たちの作品を展示する。

Q：よくここまで輪が広がったなと感心した。企画はどのように検討しているのか。また、イベント時の場所代はどうしているのか？

A：5月の個展は、オーライタローさんがもともと看板建築の絵を描いていたので、海老原商店を2002年に描いたものを購入した。そのご縁で個展を見学し、ぜひ看板建築の絵を中心にと展示会を提案したところ、実現した。大体そんな風に企画を出して実施しているが、相手方から持ち込まれた企画もある。入場無料だが、場所代は多少頂いている。

Q：情報発信の方法は？

A：ホームページも作ったが、民泊が中止になったので公開はしていない。これまで来場した人にSNSやDMを使って情報発信し、かなり反響があった。



15 秋葉原に残る昭和20年代の建造物を改修し、千代田区のブランドである「猫」をテーマにしたコミュニティカフェをひらく。子供からシニアまでが楽しめる集いの場 (秋葉原・旧旅館【東館】内ちよだニャンとなるcafe) (普請部門・年度報告1回目)



昨年の活動成果発表会で助成が決定し、その翌日から活動した。昭和27年建築の東旅館は何度か改修したが、終業して持ち主が住んでいた。それをお借りしてリノベーションし、公共の場所として使うという提案をした。

7月に工事着工となったが、工事に入る前に壁となったのは費用だった。予算は500万円の助成金と私たちの自己資金200万円程だったが、建築の耐震構造とかトータルで1,000万円位かかる計算になった。そこで審査会委員からクラウドファンディングの提案があり、7月から検討を始め、8月にスタートさせた。

コンサルの方と話をしたが、古民家再生は壁が多く、何かノウハウがあるわけでもなかった。私たちは2000年からボランティアで区内の飼い主のいない猫を保護する活動をしてきたので、その友人知人の活動グループを中心に支援者を募るしかないと考えた。「古民家を利用した猫保護活動」というテーマで、昨年8月からクラウドファンディングをスタートさせ、おかげさまで約730万円集まった。

まず9月にプレオープンで内覧会を行い、ここが猫保護活動だけでなく地域の方に集まっていただく場としてようやく動き出した。この場所ができたからには、地域の人に活用してもらい、猫を介在にして人と人との交流地点、「猫のいる小さな公民館」として大いに活動しようと思った。

Q：オープン後、近所の方やオーナーの方からはどんな声が寄せられているのか？

A：ご近所の方から反対の意見はなく、猫に興味のない方でもお年寄りなどが訪れては話をしていく。大通りから入った路地裏で、少し暗いが、常に人がいて電気がついていて明るくなったと言われた。地域の防犯とまでは言えなくても良い影響はあったようだ。

Q：最初は猫だけをテーマにしていたので疑問があったが、古民家再生と合体させ、猫保護活動を基盤にして展開された。ほのぼのとした家具や内装のデザインは、猫が好きなものなのか、猫好きの人の好みのモチーフなのか？

A：実は赤字経営だが、ニャンとかなると頑張るしかない。カフェのデザインは動物行動学も修めている世界的な獣医さんがボランティアでデザインし、猫のストレスも緩和する空間にしてある。

Q：秋葉原のほかの団体との連携は？まちサポの助成グループとの出会いもあれば伺いたい。

A：報告書に反省点として書いたが、猫は365日世話をする必要があり、それを最優先でここまで走ってきたので、ほかのグループとの交流はあまりない。神田珈琲園さんや海老原商店さんと交流してツアーで歩く事などができたらと思う。それを次の課題として考えている。



(OBグループ活動報告)

市井人・斎藤月岑に学ぶ会 (後藤禎久氏)

このプロジェクトは2004年に月岑生誕200年を記念して顕彰碑を地域主体で建設することで、タウンマネジメントの記録として貴重な『類聚撰要』をまちづくりの資料として収集・翻刻し、それを地域共通財産として公開することで、オープンソースのまちづくり文庫『月岑文庫』開設へと発展させることを目指してきた。

私たちは2002年、2003年のサポート事業で、合計95万円の助成を受けた。ただ、顕彰碑の建立は助成金を使わず、一般か

らの寄付で行った。とにかく寄付をお願いして、飲み屋にも募金箱を置き協力いただいた。2004年に顕彰碑を建て、斎藤月岑の玄孫を運よく探し当て除幕式に招待できた。

私は月岑も知らず名前も読めなかったが、当時千代田区役所にお勤めの方が「バブルがはじけて神田から人が減り、まちづくりが破壊されている。斎藤月岑を通して考えてみよう」と言われて、その熱心な説得に折れて始めた。名前だけ会長を仰せつかり、いつの間にか自分ものめり込んでいった。

その後2005年頃、ある人の「今までの活動を残そう」という一言で、もう一度立ち上がった。

会報『翟巢通信』を2009年から毎年発行し、現在11号まで出している。「翟」は雉の意味で、月岑は神田雉子町の生まれで住んでいたため、雉の巢という意味に「適当にやろう」というダジャレの意味も込めて、「テキソウ通信」と名付けた。

2010年「神田の文化人、斎藤月岑と『江戸名所図会』」を行った。2012年講演会、2015年江戸東京博物館で「月岑でまちづくりを学ぶ」を講演した。雑誌「地方史研究」に活動報告を掲載している。

2019年現在、神田駅開業100周年記念イベント「駅から八

イキング」に参加し、コースの途中にある斎藤月岑居宅跡で説明をする。先日は千代田区の映像広報の撮影があり斎藤月岑の紹介をしたので、近日中にアップされると思う。

今後は、目の前の成果を求め過ぎないこと、細々とでもゆっくり活動し結果を焦らないこと、各自が自分のベクトルで研究や趣味を大事にし、たとえ一時中断しても、キーワードは継続だということを意識して活動していく。それができるのはお互いに違う研究をしているからだと思う。練供養とか江戸や月岑でないことも、それぞれのテーマを持ってやる。集まった人間が月岑一本やりではないが、それでもやり続ければ結果としてつながり何かが残る。とにかく継続が大切だ。

東京高架下軌道（通称ニコニコ電車）（山岸勇一氏）

私は助成金を頂いてから、任意の団体として継続的にやっている。地方のローカル鉄道の廃止が続く中で、まちに元気がなくなり廃れていく。その一方で東京はにぎわう。その両方を結びつける方法はないかと考えた。

そこで、千代田区に交通博物館があることに気づき、電車を通じて地域交流ができないかと考えた。かつて甲武鉄道があり、万世橋駅・鉄道博物館のあった神田淡路町や神田須田町、万世橋界隈にスポットを当て、鉄道とまちの歴史や物づくりの楽しさを学ぶ勉強会を開催し、子どもから大人まで楽しめるミニ電車（人が乗れる最小の鉄道模型車両）を運行するイベントを行った。

これまでに19回、7か所で運行してきた。当初から法人化を前提に目指し、きちんと会計・決算をしてきた。年間80万円位の収入で、年に10万円程度の黒字、収益は設備を新しくする費用に充て、この6年間続けている。

始まりは杉並区の高円寺高架下の商店会の会長から、暗くて人が集まりにくいのを何とかしたいと相談され、「電車の下を電車が走るのおもしろいのでは？」ということで走らせたことだった。さらに群馬県の渡良瀬渓谷鉄道とコラボして物産展を開き、

電車は渡良瀬渓谷鉄道の車両にして走らせたのがスタートだった。

ほかにも東北復興支援イベントで宮城県と福島県をつなぐ阿武隈急行鉄道の応援と被災地の多く子どもたちを支援するために東北にも遠征した。

秋葉原のUDX前の広場で杉並区観光協会の出店に併せて群馬の電車を走らせた。五軒町ファミリー会の会場でも3年連続で走らせたのは、秋葉原タウンマネジメント（株）とのコラボで行った。今の活動は、ミニトレインという子どもに人気のもので活動しているが、そもそも、地方の鉄道を元気づけるという初心を忘れてはいけないので、これからはそれに沿った企画を拡充していきたい。また、ミニトレインで地域活動に貢献できることをやりたいと考えている。

課題でもあるが、運営のメンバーが高齢化しつつあるので、新しい若い方を呼び込み、補充しつつ、開催場所を広げたい。そんなことを考えつつ現在7年目に突入している。

審査会委員講評

片岡勝吾 委員



皆さま、本当にお疲れさまでした。本日はありがとうございました。

いろいろなグループの発表を聞き、やはり大変なこともあるかと思えます。課題はそれぞれにあるとは思いますが、どうぞ、

それを乗り越えて、来年度も楽しい企画が出てくることを楽しみにお待ちしております。

後藤禎久 委員



どうも、発表をありがとうございました。お疲れさまです。

先程もお話ししましたが、私は「斎藤月岑の会」をやっております。今日、皆さんの成果発表を聞いて一番思ったのは、

20数年前と比べて随分変わったなということです。それはほかのグループとコラボして活動するのは当時、恐らく1つもなかったように思います。

今回、海老原商店を会場として、そこを舞台にいろいろなグルー

プが活動し、それから神田明神を舞台にいろいろなグループが一緒にやるというのが、非常に印象的でした。昔は考えてもみなかった、しようとも思わなかったようなことが実際に起きているのだな、と思い感心しました。

私は、今回で審査会委員を退任する事になりましたが、本当にいつも辛口のこと、勝手なことを言いまして、どうもすみませんでした。

ありがとうございました。

朝比奈ゆり 委員



皆さん、長い時間お疲れさまでした。本日の成果発表、報告会ですが、今日もまた、「へえ〜」とか、「そうなんだ」とか思いながら、いろんなことを気づかせてもらえる一日になりました。ありがとうございました。

グループによっては、必ずしも上手くいかなかったこともあると思います。きっと、そういう経験をこの助成事業は、次につなげてほしいということで、そこを応援することが大切だと考えています。つまり、皆さんがやりたいと思ったことを、できるだけ助けていく。そういうことができているのであれば、このサポートはやってよかったと思えるわけです。

特に ARDA さんとか、Bon-dance Mates さんとかは、はじめの一步を踏み出していただけたということで、いろいろまた次に向けて考えていらっしゃることもあるかと思えます。そういう

意味のある時間を、今日も提供できたのならよかったと思います。

私は千代田区以外のほかの助成事業に接する機会もあるのですが、こんなにユニークな活動は、ほかにはないのではないかと思います。

ダンスもあるし、アートもあるし、傘ラジオも看板建築も、プロレスもある。山東菜もある。拾い上げたらきりがなくらい、本当にユニークな助成事業の活動で、しかも先ほど、後藤委員がおっしゃったように、横のつながりを作り始めている。そういうゆるやかなプラットフォームが、これからもできていくといいなと思います。

また、「サポート事業がこうなったらいい」という意見がたくさんありました。それを今後、まちプラさんや事務局と一緒に改善に向けて考えて行きたいと思えます。

よろしくをお願いします。

堀田昭信 委員



今日は成果発表をお聞かせくださいまして、ありがとうございました。

4年ほど前に、千代田区の区役所の方にお聞きしたのですが、千代田区の人口は一時、4万人を切った時期があるそうです。

それが今はまた7万人位にまで増えて来ているそうです。

そのような中で、皆さんへの期待、グループの役割というのが、大きくなってくのではないかと思います。これからも、さらにいろんな工夫をして活動していただければと思います。

それから、後藤委員からもお話がありました。私も今年の報

告書を拝見して、最初に思ったのは、グループ間の交流がすごく進んでいるなというのを非常に感じました。

先日、ブラックホールをテレビ撮影できたというニュースがありました。これは日本側の天体望遠鏡だけではなく、世界の5つとか、8つの天体望遠鏡が力を合わせて、それを撮影することができたそうです。いまさら言うまでもないことですが、グループの力を合わせれば、さらに充実した成果につながっていくと思われれます。

これからも、より協力し、工夫して頑張っていただければと思います。

恩田浩行 委員



区ではちよだコミュニティラボライブを始めており、これを皆さんに有効に使っていただき、グループ同士をつなぐのに役立ててほしいと思います。仲間づくりとか、団体同士が知り合うきっかけになれば大変うれしく思います。これから、例えば

先ほど Bon-danceMates さんのお話にもありましたが、以前から地域で活動していた団体と、皆さんが連携するために我々の方

にできることがあればご案内もさせていただき、情報提供をしたいと思っています。

活動を膨らませていくとき、やりたいことを地域の人に伝えると、手応えとして戻ってくることも多々あると思いますので、遠慮なくご連絡いただければと思います。後は皆さんが自力で仲間をつかまえていくという感じで、ぜひ、次回以降もどうぞ頑張ってください。

どうもありがとうございました。

奥村玄 副会長



委員の方々が口々におっしゃっていましたが、「コラボ」というのは言葉ではよく聞きますが、ほんとにコラボの活動が実際に目に見える形で私たちに示していただけているというのは、これはすごいと思えました。

一見テーマが違うように見えていて、ちゃんと一つの接点を見出していることは、私たちが教わることも多く、いろいろな活動がありますが、必ずどこかで成果がつながる可能性があることを見せていただいた気がします。

仲間づくりについては、「おもしろい」とひと言言ったら、その人を仲間引き込む、というのは、すごくいい話だなと思いました。

最近の活動の特徴として、ライブ感覚にますます磨きがかかってきたと感じています。

それから、「アートでまちづくり」、これはまたいろいろ可能性を見せてくれました。私も、実は下北沢の辺りで、「街ピアノ」の活動のお手伝いをしていますが、彫刻・長唄・アート等で皆さんが結びつき合える。さまざまなテーマで講座を開いている。そういう活動が多くて、学ばせていただきました。いろいろな活動の波紋が広がる様子が見えるようで、手応えとして感じられます。

神田プロレスも見に行きたいと思、日付を手帳に書いていたのですが、ついっかりして、気が付いたら終わってしまいました。とても残念でしたので、来年もぜひやってほしいと思っています。

【全体講評】中島直人 会長



各委員からも感想が出されましたが、今回の活動発表会では「コラボレーション」というのがキーワードだと思います。これは、偶然ではなく、いくつか理由があるはずです。

1つは、現在、まちサポの力を含めてさまざまなサポート体制があり、つながりやすい状況等、昔に比べ交流がしやすくなり、工夫されてきたことがあります。

もう1つは、ほかの委員もおっしゃったように、海老原商店が生み出してくれた「場」の力です。本来、普請部門とは一般部門と違い、歴史的な建物を改修するだけでなく、市民活動をつなげて行くのが特色です。古い建物を改修する助成はほかの区や自治体でもやっています。千代田区の助成のおもしろいポイントは、建物を改修することと一般部門であるまちサポの活動を一緒

にやっていることです。

もう一つは、神田プロレスさんや協働プラットフォームさんが、意識的に声をかけてコラボレーションをしてくれたことです。

今日の発表会で、一番印象に残った言葉は、神田プロレスさんが言った「夢」という言葉です。どんなまちを作りたいか、どんな地域活動にしたいか、やはり「夢」がコラボの力や主体にもなり得ます。資金のことや目の前の問題を解決することに目がいきがちだけれど、もともと持っていた「夢」をなくさないようにしてほしい。毎回この事業の審査や発表の場で何回か皆さんと出会いますが、その中で「夢」を語ってほしいと思います。

良く考えると「まちづくり」は「夢」を語る舞台なのだ、「夢」を受け止めていく場所なのだと感じます。多様な「夢」を語って、すごいと感じ、共感させられるようなプレゼンを、次回もしてほしいと思いました。

■まちみらい千代田では、まちづくり事業推進のため、賛助会員を募集しています。

公益財団法人まちみらい千代田 賛助会員一覧（敬称略）

2019年6月現在

【法人会員】		【個人会員】		
業種	会員名	業種	会員名	
金融	(株)きらぼし銀行 神田中央支店	その他	大塚製薬(株)東京支店	
	興産信用金庫		KKテクノロジーズ(株)	
	西武信用金庫 神田支店		(株)弘周舎	
	みずほ信託銀行(株)		ゴージョージャパン(株)	
建築土木	(株)エコ・24		(株)こどもの館	(株)コンベンションリンケージ
	(株)久保工		(株)住宅あんしん保証	鈴新(株)
	(株)竹中工務店		(株)すららネット	瀬味証券印刷(株)
	(株)ナカノフドー建設		(株)TALO都市企画	(一社)千代田区観光協会
建設設計	(一社)改修設計センター		(株)ツツキ	東京スクリーン(株)
	(株)楠山設計		東洋美術印刷(株)	(株)トキワ
	(株)翔設計		(株)日新火災海上保険(株)東京事業部 東京西支店	(株)日精ピーアール
	(一社)東京都建築士事務所協会千代田支部		(株)ノーラエンジニアリング(株)	(株)バイオレンジャーズ
	パシフィックコンサルタンツ(株)		(株)ハセツパー技研	ハネクトーン早川(株)
緑花・環境	日産緑化(株)		富士ゼロックス(株)	(一社)マンション管理組合支援センター
	(株)日昇緑化研究所		(株)ムレココミュニケーションズ	(株)リブリッジ
広告代理	(株)フィレール		(株)ワンズイン	
不動産	エヌティティ都市開発(株)			
	協永ソフトエンジニアリング(株)			
	住友不動産(株)			
	天翔ビルディング(株)			
	東京建物(株)			
	プラットフォームサービス(株)			
	三井不動産(株)			
	三菱地所(株)			
	安田不動産(株)			
IT関連	(株)メディアリンク			
コンサルタント	NPO法人 都市住宅とまちづくり研究会			
その他	(株)i-tec24			
	(株)アズーム			
	(株)イサミヤ			
	(有)エイアイ企画			
	(株)FEA			

他5名

(法人:59 個人:15 計:74)